

神 経 芽 細 胞 腫 検 査

動 向

小児がんの一つである神経芽細胞腫のマス・スクリーニングは、平成12年度より相模原市が市保健所で実施するようになり、神奈川県においては次の5つの実施主体で行われるようになった。横浜市は当協会で、川崎市は聖マリアンナ医科大学で、横須賀市は市衛生試験所、相模原市は市保健所で実施され、それ以外の県域部では県内4保健所で実施されている。

当協会は、昭和57年10月より横浜市の委託を受け20年が経過した。

当協会の検査方法は、横浜市内18の福祉保健センター(旧保健所)にあらかじめ配付されている検査セットを4ヵ月健診時に保護者に配布し、生後6ヵ月をメドに濾紙に採尿してもらい、十分に乾燥させてから当協会に郵送してもらい検査している。

神奈川県が中心になり、実施主体の県、横浜市、川崎市、横須賀市、相模原市の行政、精密診査受け入れ医療機関及び検査機関関係者が集まって協議する「神経芽細胞腫マス・スクリーニング連絡会」は、14年3月に9回目が開催された。

方 法

神経芽細胞腫検査は一次検査から高速液体クロマトグラフィー (HPLC) で実施されている。VMAとHVA検出のための蛍光検出器、クレアチニン検出にはUV検出器と2種類の検出器を搭載する東ソーの神経芽細胞腫検査専用機HLC-726VMA3台とVMA, HVA, クレアチニンともに電気化学検出器で検出する島津製作所の汎用機LC-10A, 2台で実施してきたが、今年度末に島津の新機種LC2010システムをLC-10Aの更新機として導入した。

東ソー機で初回検査を行い、そのうち再測定を必要とする検体については島津システムで二次検査を実施している。

結 果

今年度の検査実施数は、29,993件であった。昨年度より135件(0.46%)の増加であった。一次検査で要再検査になった検体は490件(1.65%)であり、昨年度より12件(0.04%)の増加にとどまったが、再検率が図1に示すように12月から急激に上昇した。3月にはそれら再検の戻りが通常の3倍となり、横浜市から疑問の問い合わせをいただくこととなった。しかし、島津LC

2010システムを新たに導入した後は再検率は安定し問題はない。ちなみに12年度の再検率は図2のようであった。

今年度実施分から精密診査を必要とした者は38名(0.13%)であった。一次検査から要精密になった1名は患児であった。再検査からは5名が要精密になり、そのうち3名は患児と確定した。もう1名は要精密診査となり、保護者と連絡をとった時点で既に聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院を受診していた。患児であることは電話で連絡を受けたが「神経芽細胞腫検査精密診査者追跡リスト」及び「神経芽細胞腫確定者追跡リスト」への記入を依頼し、文書で確認した後マス・スクリーニングによる発見患児として登録するので、この1名については次年度の報告となる。残り1名も同病院を受診しているが、精密者追跡の上記2つのリストが返送されてきていないため、患児か否かは不明である。再々検査からは32名が要精密となり、そのうち7名が患児と診断された。

以上のとおり、今年度確定した患児は11名であり、患児発見頻度は1/2,695(0.037%)となって昨年度に引き続き非常に高率であった。また、昨年度分から今年度になって患児と判明した1名を昨年度発見患児として追加した。よって昨年度の患児数も11名となった。

図1 13年度の月別再検率

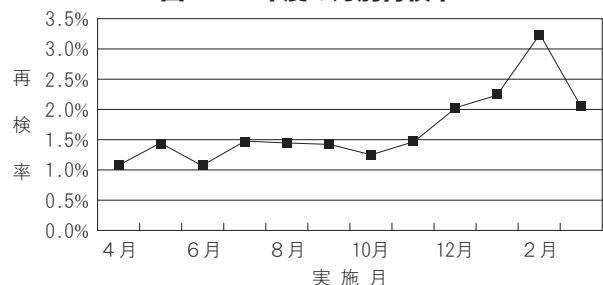
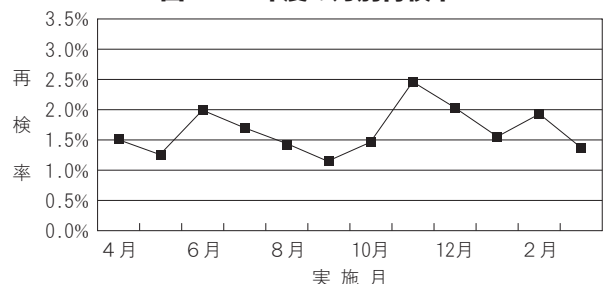


図2 12年度の月別再検率



関係の集計表は174頁に掲載